

資料 3

平成26年9月定例会（事前）  
広域交流対策特別委員会資料  
商工労働部

## 平成25年度 観光振興施策の実施状況

観光国際局観光政策課



## 1 将来の観光を担う人材の育成

### (1) 観光に対する理解と関心の醸成

#### ○小中高等学校での学習の推進

- ・幼稚園児から小学生までを対象に、郷土徳島を理解し、楽しみながら徳島の魅力を学習するために配布した「阿波とくしま観光かるた」を使って「第4回阿波とくしま観光かるた大会」を開催した。
  - ◆第4回阿波とくしま観光かるた大会：平成26年1月13日開催
  - 参加者307名 ※過去最多

#### ○郷土を再発見できる講座の開催

- ・県西部では国史跡「丹田古墳」を核とし、東みよし町内の文化財をつないだ文化財巡りの開催、県南部では国史跡「阿波遍路道」の活用を図る講演会やウォーキングを実施した。また、海部郡内の文化財に視点をあて、新たに「海の文化財」のゾーン化を目指すイベントを開催した。

#### ○観光振興に関する情報の周知

- ・「県民“まなび”拠点」である徳島県立総合大学校において、高等教育機関や民間教育機関、NPO、市町村等の関係機関との連携を推進し、より充実した生涯学習情報をワンストップで提供した。

### (2) 「おもてなしの心」を生かした観光客の受け入れ

#### ○主要観光地等でのガイドによる対応

- ・新たに認定を受けた「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の観光地域ブランド確立に向け、地域資源の発掘・改善による滞在プログラムの作成、ガイド育成研修等を行った。

#### ○観光講座の充実

- ・四国観光達人や観光事業従事者を対象とし、着地型旅行商品を造成する人材育成研修事業を実施した。

### (3) 観光の振興に寄与する人材の育成

#### ○リーダーの育成

- ・体験型観光に精通した専門家からのアドバイスを受けながら、インストラクターのレベルアップを図るための研修会を行った。

#### ○外国人観光客に対応できる人材の育成

- ・JNTO（日本政府観光局）の有する世界的ネットワークを活用し、国際観光情報を収集した。また、収集した情報を活用しながら、徳島県国際観光テーマ地区推

進協議会において、県内の国際観光に携わる関係者を対象として研修を行った。

### ○観光分野でのICT活用人材の育成

- ・県内の魅力ある情報を、写真や動画などを使いインターネット上に発信することのできる人材育成を行うため、県民を対象に、SNS活用講座及び動画配信講座を実施した。

#### **【個別目標の進捗状況】**

- ボランティアガイドを育成する講座の開催やネットワークの構築を図るなど、ボランティアガイド団体の活動が県内各地において順調に行われている。

## 2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり

### **（1）住んでよし、訪れてよしの観光地づくり**

#### ○観光客との交流が生まれる観光地づくり

- ・三好市東祖谷落合集落において、地域コミュニティの維持再生と定住促進を図るため、古民家3軒を改修し、体験型宿泊施設として活用した。

#### ○地域が一体となって取り組む観光地づくり

- ・地域の人と地域の日常を体感してもらう、にし阿波体感プログラムイベント「にし阿波と恋する時間～あわこい～」を秋と冬に開催した。

#### ○人にやさしい観光地づくり

- ・観光地の魅力を向上させるため、観光客が安心して訪問できるような案内標識や外国人にもわかりやすい多言語表記による案内標識の整備を行った。

### **（2）観光資源の育成**

#### ○四国八十八箇所巡りと県内各地での観光の組み合わせ

- ・第4番札所「大日寺」の詳細調査（古文書等）を行った。また、「阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会」を設置し、第20番札所「鶴林寺」の国史跡指定に向け、調査報告書の取りまとめを行った。

#### ○伝統芸能の振興、活用

- ・「徳島市阿波おどり」の際に、無料棧敷やにわか連、総合案内所の運営、交通円滑化の事業に助成するとともに、県外客への県庁外来駐車場の開放や駐車場情報の提供を行った。
- ・県外でのイベントや観光キャンペーン等に「阿波おどり」を派遣し、その魅力を実

際に体感してもらうことにより、本場徳島への誘客を促進した。

- ・「徳島ならではの文化資源を活用した地域活性化モデルの構築」「音楽文化が息づくまちづくり」「文化の力によるまちづくりに意欲的に挑戦する市町村や文化団体への多面的支援」などを行う「文化立県とくしま推進事業」を実施した。
- ・東京の百貨店での工芸品展に、大谷焼を出展し、伝統的工芸品産業の振興を図った。
- ・阿波おどり会館「あるでよ徳島」において、藍染め、しじら織シャツの販売を実施し、地場産業の振興を図った。

### ○宿泊施設、飲食店等における地元食材の活用

- ・阿波尾鶏指定料理店、徳島産はも指定料理店、地産地消協力店の登録の推進により、「徳島ならではの」の食を提供した。
- ・徳島の食文化の魅力を効果的に発信するため、メディアを対象として、旬の徳島ブランドの産地や加工場、観光地などを巡るプレスツアーを実施し、食と観光の連携によるイメージアップを図った。

### ○観光資源の掘り起こし

- ・にし阿波体感プログラムイベント「にし阿波と恋する時間～あわこい～」において、地域の人々が地域の魅力を再発見することにより、新たな特産品・土産品を掘り起こし、地域の魅力アップを図った。
- ・「室戸阿南海岸国定公園」指定の風光明媚な海岸線と、漁業が盛んな地域特性を活かして行われている漁船等を活用した遊覧観光についてPR活動を行うとともに、他の観光事業者との連携等、観光客受入体制の強化を図った。
- ・LEDを効果的に取り入れた光の名所と呼べる場所やモニュメント、施設・街並み等を四国霊場になぞらえ、「光の八十八ヶ所」として認定し、広く情報発信した。

## (3) 郷土料理や物産など総合的な魅力向上

### ○農林水産物のブランド化

- ・「新鮮なっ！とくしま」号を活用した「徳島ならではの」の積極的なPRを実施するとともに、「とくしまブランド協力店」、「美味しいよ！とくしまブランド店」を通じた情報発信を図った。

### ○農林水産物直売所の活用

- ・地産地消協力店の登録を推進し、県産品の活用及びPRの拡大を図った。また、直売所のステップアップのための研修会を開催した。

### ○消費者等へのアピールの場の提供

- ・「阿波とくしまアンテナショップ」を新たに認定するとともに、既認定店のPR支援を行った。

#### **(4) 地域の観光の振興に関する総合力の向上**

##### **○観光地の連携による周遊型観光の推進**

- ・「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」や「A M A地域連携推進協議会」等の事業活動をサポートし、成果を高めるため、同エリアへの公共交通機関を使った旅行商品やモデルコース等の情報発信に努めた。
- ・「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の主要スポットや滞在プログラム等の移動を円滑に行うため、既存の交通機関と連動した周遊タクシー等の移動手段、運行スケジュール、価格体系等について調査・検討を行った。

##### **○観光に関する情報の共有化**

- ・宿泊施設やレストラン、観光施設等で提示すると割引サービスなど、おトクな特典が受けられる通年型周遊パスポート「おどる宝島！パスポート」をスタートさせ、観光客の周遊と宿泊の促進を図った。
- ・県社交業生活衛生同業組合、県料理業生活衛生同業組合、県すし飲食生活衛生同業組合と連携し、夜の徳島を楽しんでいただく冊子「おいでなして徳島」を企画提案・作成し、お得なプランを設け、県外からの大会、コンベンション参加者や観光客等に対し、PRを行った。

#### **(5) 自然環境及び良好な景観の保全**

##### **○自然体験活動等を通じた環境学習の推進**

- ・環境学習を通して小中学生の問題解決力を育むため、地域と学校等が連携し、コミュニティを通じた環境学習が実践できるよう、アドバイザーの派遣や学習教材の提供などの支援を行った。また、環境学習の取り組みが広がるよう、環境活動成果の発表会や情報交換ができるフォーラムを開催した。

##### **○環境と景観の美化**

- ・環境と景観の美化に向けて、様々な清掃活動を推進した。
  - ◆「アドプト・プログラム吉野川」の推進
  - ◆「ごみゼロの日」キャンペーンの推進
  - ◆「阿波とくしま観光の日」における美化活動の推進

#### **(6) 観光客の利便性の向上**

##### **○着地型観光での利便性の向上**

- ・鳴門JCT～徳島IC間の直結、本四高速の全国共通料金制度導入見通しを踏まえ、「にし阿波お勧めビューポイント」の魅力向上の一環として、パンフレット等の配布とともに、パネル展及び写真展などの積極的なPR活動を展開し、観光客のにし阿波への来訪滞在の促進を図った。
- ・全国に配布される「Human-Powered Games」などアウトドアイベントのパンフレッ

トに、観光情報サイトの案内を行い、南部圏域の魅力について情報発信を行った。

#### ○クレジットカード等の利用による利便性の向上

- ・銀聯カード使用可能店舗の情報収集及び県観光情報サイト「阿波ナビ」等を利用した情報提供を行った。

#### ○交通アクセスの向上

- ・徳島阿波おどり空港発着路線の維持・拡充を図る利用促進事業を実施した。

#### ○二次交通の整備

- ・地域の幹線となるバス路線の運行を支援することで、観光客にとっても広域の移動手段が確保され、利便性が向上した。

#### ○駐車場の確保

- ・鳴門公園への観光客が集中するゴールデンウィークやお盆期間中において、無料駐車場の設置や無料シャトルバスの運行など、地元の市、関係事業者、指定管理者と連携し、渋滞の緩和対策を行った。

### (7) 安全及び安心の確保

#### ○事故、災害発生時の迅速かつ的確な情報提供

- ・防災・危機管理情報「安心とくしま」ホームページにおいて、大雨に関する情報はじめとした様々な危機事象について、迅速かつ正確な情報の周知に努めた。

#### 【個別目標の進捗状況】

- ・地産地消協力店については、飲食店や量販店のほか、農作物直売所の登録がすすみ、順調に増加している。
- ・「新鮮なっ！とくしま」号の展開による「徳島ならでは」のPRや「とくしまブランド協力店」・「美味しいよ！とくしまブランド店」の登録により、大都市圏におけるPR体制及びブランド力の強化に取り組んでいる。

### 3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進

#### (1) 新たな観光旅行の開拓

##### ○グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムの推進

- ・「南阿波よくばり体験推進協議会」や「(一社) そらの郷」を中心とした体験型観光について、地域が一体となった取り組みを支援した。

##### ○産業観光の推進

- ・産業観光を組み込んだ魅力ある旅行商品の造成に取り組んだ。

##### ○食を活用した観光の推進

- ・「徳島の活鱧」のブランド品目としての確固たる地位を築くため、首都圏における需要の新規開拓や「日本三大はも祭り！」でのPR強化を行った。また、県内への入り込み客数の増加を図るため、観光関係団体と連携し、「はも」をはじめとした徳島の美味しい魚と店舗情報を発信した。
- ・徳島の食文化の魅力を効果的に発信するため、メディアを対象として、旬の徳島ブランドの産地や加工場、観光地などを巡るプレスツアーを実施し、食と観光の連携によるイメージアップを図った。

##### ○参加・体験型教育旅行の誘致

- ・教育旅行の誘致拡大のため、教育関係者や旅行エージェント担当者の招聘等を行うなど、積極的かつ効果的なPRを行った。

#### (2) 観光客の滞在促進

##### ○観光資源の特色を生かした観光プランづくり

- ・四国八十八箇所霊場開創1200年の気運を高めるため、若き日の空海が歩いた発心の道場である本県の四国霊場札所を歩き、遍路体験を通じて文化、自然を楽しむ企画を実施した。

##### ○徳島ならではの食材、県産品を生かした観光メニューづくり

- ・ナビアプリや情報誌の作成・配布等を行い、県外客に対する県内産直市の情報発信力を高め、誘客を図った。
- ・「新鮮なっ!とくしま」号を活用した「徳島ならではの」の積極的なPRを実施するとともに、「'13食博覧会・大阪」への出展により、県産食材の知名度向上や、食と観光の情報発信を行った。

#### 【個別目標の進捗状況】

- ・とくしま農林漁家民宿の開業支援と育成のための組織作りの推進や、人材育成を図り、積極的にPRした結果、体験宿泊者数は順調に増加している。



- ・本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、教育旅行の誘致・受け入れに積極的に取り組み、体験型教育旅行における協議会受入泊数は順調に増加している。

#### 4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立

##### (1) 徳島県の魅力に関する情報発信

###### ○インターネット、携帯サイトの活用

- ・「にぎわいとくしま観光協議会」の徳島ファンクラブのメールマガジンにおいて、月1回季節に合わせた観光スポットやイベントなど、徳島の魅力ある観光・物産情報を提供した。
- ・加工品のポータルサイト「あるでよネット」と、農産物（一次産品）のポータルサイト「新鮮なっ！とくしま通信」を統合し、新たな県産品ポータルサイト「おどる宝島！なっ！とくしま」を構築し、徳島の「食の魅力」を効果的に情報発信した。

###### ○情報発信拠点の充実

- ・観光情報サイト「阿波ナビ」の内容の充実を図った。
- ・県外本部内の観光コーナーにおいて、観光・イベントポスターやパネルを展示するとともに、県や各市町村等が作成した観光パンフレットを旅行業者や来客者に配布し、詳しい説明を行うことにより、観光情報を積極的に提供した。また、各種イベントにおいても積極的に観光情報の提供に努めた。

###### ○県民一人一人の情報発信力の向上

- ・「宝の島・徳島」を素材にしたデジタルコンテンツを顕彰することにより、地域情報を発信するとともに、クリエイターの発掘・育成を行った。

###### ○口コミの活用

- ・観光情報サイト「阿波ナビ」の誰もがクチコミ情報を提供できるサブサイト「もっと！！阿波ナビ」で、旬の魅力ある情報の収集・発信を図った。

###### ○大都市圏でのアンテナショップの活用

- ・全国に向けた、徳島物産・観光の情報発信や県産品の販路拡大を実現するため、県外物産センターの運営や、民間活力の活用による「阿波とくしまアンテナショップ」認定支援、コンビニ協働事業を活用したアンテナショップによる展開を図った。

###### ○観光・物産展の開催

- ・首都圏や関西、九州等の各百貨店において四国観光物産展等を開催し、本県特産品の販路拡大と誘客促進を図った。

## ○総合的な情報発信活動の強化

- ・「おどる宝島！とくしま」キャンペーンとして、キャンペーンブック・サイトによる旅行愛好者に直接届く魅力発信のほか、名古屋・大阪・神戸行き高速バスのラッピングを行った。
- ・JR四国と観光パートナーシップ協定を締結し、同社が「長年培ってきた豊富なノウハウ」や「多様なPR媒体」を活用し、本県の観光振興を図った。
- ・近畿圏等との交流拡大を図るため、近畿圏等の府県と広報紙等のスペースを交換し、「本県の魅力発信」を行った。

## (2) 様々なマスメディアによる魅力の発信

### ○ロケーションブランドの確立

- ・「徳島県ロケーション・サービス」を中心に、各種テレビ、映画のロケを支援した。

#### 【個別目標の進捗状況】

- ・観光情報サイト「阿波ナビ」の充実を図るため、スマートフォン用サイトの開設などを行った。
- ・「新鮮なっ！とくしま」号を活用し、「とくしまブランド協力店」を核とした「徳島ならではの」のPRを展開した。

## 5 国際観光の推進

### (1) 外国人観光客の来訪促進

#### ○伝統文化等を活用した海外における観光宣伝活動

- ・阿波おどり、お遍路等の伝統文化や本県の食材・食文化を「徳島ならではの」の観光資源としてPRするとともに、四国や関西各府県の有する観光資源を組み合わせた広域観光としての情報発信も行い、外国人観光誘客を促進した。

#### ○ターゲットを絞った誘客活動

- ・自然、文化、食等の本県の魅力やアニメ、体験観光、医療観光など本県の強みを東アジア、東南アジアの重点エリア等においてプロモーション、情報発信を行った。

#### ○海外からの誘客活動の促進

- ・団体旅行及び個人旅行客の誘致を図るため、お遍路や教育旅行、アニメなど徳島の強みをアピールするとともにファムツアラーの積極的な受け入れ、海外でのプロモーションを展開した。

### ○外国語パンフレットによる情報発信

- ・観光パンフレットを自治体国際化協会及びJ N T O（日本政府観光局）の海外事務所を設置するとともに、海外で開催される旅行博覧会や様々なイベントにおいても配布し、積極的な情報発信によるPRを行った。

### ○インターネットを活用した外国人向け情報発信

- ・県の公式ホームページ（外国語版）、国際戦略センターのホームページ（外国語版）、Facebookページ「Discover Tokushima」（英語版）、国際観光メールマガジン（外国語版）等において、多言語により外国人向けに情報を発信した。

## (2) 外国人観光客の受入態勢の整備

### ○外国語表記の推進

- ・市町村や国際観光関係者と連携して、観光案内板等の多言語表記を促進した。

### ○外国人観光客への案内サービスの向上

- ・外国人観光客に対する観光情報の提供、各観光案内所からの問い合わせへの回答及び観光情報やパンフレット等の収集を行った。

### ○国際チャーター便の活用

- ・平成25年7月から8月にかけて、香港からのチャーター便（12往復）を誘致した。

## (3) 海外との相互交流

### ○海外とのネットワークづくりによる相互交流の活性化

- ・「ドイツ・ニーダーザクセン州」との友好提携などにより、経済・文化・スポーツなど幅広い分野で「実のある交流」を展開した。

### 【個別目標の進捗状況】

- ・東アジア、東南アジア等の旅行会社及びメディアによるファムツアーは順調に増加しており、視察や商談会などを実施して旅行商品の造成や観光誘客を推進した。

## 6 広域観光の推進

### (1) 広域的な観光地の形成

## ○観光地の連携による滞在型観光の推進

- ・NEXCO西日本をはじめ、四国他県及び四国ツーリズム創造機構と連携して、マイカーやレンタカーを利用する方を対象に、四国内の高速道路が「乗り放題」となる「周遊型企画割引」を実施した。

## (2) 四国4県及び関西圏の連携

### ○近隣府県と一体となった観光への取組

- ・四国ツーリズム創造機構の活動を通じて、官民一体となって国内外に向けた観光プロモーションを実施した。
  - ◆JR、旅行会社等と連携し、旅行商品「き・ら・り四国」や「はじめてのお遍路さん」等を造成
  - ◆「JAL麗らか四国キャンペーン」で旅行会社が実施する往復JAL便利用の四国旅行商品に対するバス代を助成したほか、「JR観光開発プロジェクト」でJR、旅行会社等と連携し、新たな観光素材の開発及び旅行商品を造成
- ・「にぎわいとくしま観光協議会」において兵庫県と連携し、クーポン券付きの「淡路島&徳島とくしま周遊ガイド」の制作・配布や、貸切バスにより両県の施設を巡る団体旅行に支援する「とくしまツーリズムバス事業」を実施した。
- ・平成25年4月に瀬戸内海に隣接する7県により「瀬戸内ブランド推進連合」を設立し、「瀬戸内ブランド」の形成を目指し、連携してブランドサイトの運営やプロモーション活動等を実施した。

### 【個別目標の進捗状況】

- ・四国ツーリズム創造機構において新たな観光モデルプランを策定し、四国の広域観光モデルルートは順調に増加している。
- ・兵庫県と連携したバス団体旅行への支援については、国内外の団体に多く利用されており、広域観光の推進に結びついている。

## 7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出

### (1) イベントの開催などによる集客

#### ○既存イベント等の改善や組み合わせによる集客力の向上

- ・「春の阿波おどり」として親しまれている「はな・はる・フェスタ2013」を支援し、「とくしまマラソン」や「徳島LEDアートフェスティバル2013」との相乗効果による集客力の向上を図った。

#### ○新たなイベント等の創出

- ・徳島市中心市街地においてアニメを核としたイベント「マチ★アソビ」を春・秋の2回開催した。また冬のアニメイベント「ぷち★アソビ」を開催し、四季を通じたにぎわいの創出を図った。

◆マチ★アソビvol.10 平成25年5月3日～5月5日 参加者：53,000人

◆マチ★アソビvol.11 平成25年9月28日～10月14日 参加者：60,000人

◆ぷち★アソビ 平成26年3月29日～3月30日 参加者：7,000人

## (2) コンベンション誘致

### ○コンベンション実施主体への助成

- ・大規模な大会等に対し、その開催経費について助成を行い、観光とコンベンションの総合的な振興を図った。
- ・観光庁やJNTO（日本政府観光局）、JCCB（日本コンgres・コンベンションビューロー）等のノウハウや諸情報を活用するとともに、県や市町村、大学等の機関と連携して、開催計画等の情報収集と意向調査に努め、県内各施設、旅行代理店、交通機関等に、その情報提供を実施した。

## (3) スポーツによるにぎわいづくり

### ○交流人口の増加

- ・平成25年4月21日に第6回大会「とくしまマラソン2013」を開催した。
- ・自転車利用促進協議会を設置し、その協議会において、既存サイクルイベントの検証や魅力あるサイクルイベントの開発を行うことにより、「自転車王国とくしま」のブランド化を行った。

### ○プロスポーツチームの集客力や情報発信力を活用してのにぎわい創出

- ・徳島ヴォルティスのJ1参戦に伴い多くのアウェイサポーターの来県が予想されることから、県外からの応援バスツアーに対する助成制度の創設や県外で行われる試合会場での観光PR・物産販売など、サッカー観戦だけでなく、本県への観光・宿泊につながるよう情報発信を行った。
- ・優秀選手の表彰や小中学生のグループ招待を実施した。また、「徳島ヴォルティスホームタウン協議会」によるホームゲームを活用した連携事業を実施した。

### 【個別目標の進捗状況】

- ・積極的なコンベンション誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション参加者数は増加している。
- ・平成25年4月21日に第6回大会「とくしまマラソン2013」を開催し、ボランティアや地元の方々の協力のもと、「徳島ならではの」応援や「おもてなし」などで本県の魅力をアピールし、にぎわいの創出を図った。